

トヨーテクノ

ブロック製作で 余剰コンを従来比1割以上削減

トヨーテクノ(愛知県名古屋市, 大江康夫社長)は、2022年12月から余剰コンクリートを自ら利用した「ベトンブロック」の製造・販売を開始しており、同事業を軌道に乗せている。2023年度は通期で160cm×80cm×80cm(1㎡)の大型ブロックを806個、その半分のサイズの小型ブロックを37個販売。ブロック製作を通じて余剰コンクリートを従来比で1割以上削減しており、ブロックの売り上げと処分費減少による効果は年間1,000万円規模とみている。



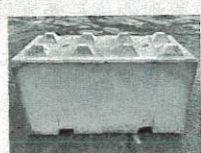
大江康夫社長

親会社のふ頭に納め出荷安定 用途幅広く行政からも引き合い

大江社長は、ベトンブロックについて「工業地に立地して工場の敷地に余裕がある強みを活かして製造し、主にバラ物のストックヤードの間仕切り用に出荷している。L型擁壁に比べ安価かつ耐久性が高く、損傷しても壊れたブロックだけを部分的に交換できてメンテナンスも容易。無筋

で処分しやすく重宝がられている」と話す。

親会社の由良海運が名古屋港の各ふ頭に展開しているバラ物のストックヤードは、L型擁壁が老朽化していたため、港近傍に立地するトヨーテクノがベトンブロックを納入して現在、8号地岸壁において擁壁からブロックへの入れ替えを順次進めている。親会社が持つ最大規模の西三区のヤードは、約5万㎡と広大な敷地であり、向こう10



160ブロック
スタンダード

- サイズ: 160×80×80cm 約2.3t
- 価格: 8,800円(税抜価格8,000円)
- ツメあり: 9,350円(税抜価格8,500円)
- 特徴・備考: 吊金具有, 引取のみ



80ブロック
スタンダード

- サイズ: 80×80×80cm 約1.2t
- 価格: 6,600円(税抜価格6,000円)
- 特徴・備考: 吊金具有, 引取のみ



余剰コンによるブロック製作

年は安定したブロックの出荷が見込まれる。

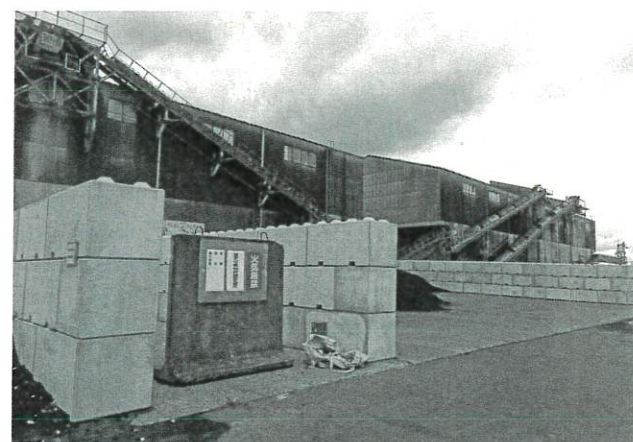
親会社向けが出荷量の1/3を占めており、残りは県内のリサイクル工場等向けに納入している。間仕切り以外にも、レゴブロックのように組み合わせることで様々な仮設構造物を形作ることができ、用途は幅広い。最近では消防署内の土砂災害訓練施設の材料として引き合いを受けた。訓練用の砂の貯蔵を目的に、積み上げたベトンブロックを「コ」の字型に配置するもの。行政からの引き合いは初めてであり、納入実績を重ね、将来的にリサイクル品としての知名度向上のため、愛知県リサイクル資材評価制度(あいくる)に申請する考えだ。

同業者と連携して注文に対応を 生コン工場のゼロエミッションへ

一方、余剰コンクリートは副産物である特性上、生コンの納入現場の状況次第で数量が変動し、ポンプ受けした含水の多いものも材料として使いにくい。ブロックの硬化まで夏場は1日、冬場は1日半かかることから、12個の型枠で日々6個ずつ製作しており、場内に200個程度までな



12個の型枠で日々6個ずつ製作



擁壁からブロックへの入れ替えを進める親会社の8号地岸壁

ら在庫できるが、それ以上の数量の注文になると一度に対応できず段階的に納入することとなる。

その反面、型枠の容量以上の余剰コンが発生すると、従来通り処分せざるを得ない。事業拡大に向けて型枠を増やし、場外にブロックの在庫を貯めるヤードを設けることも可能だが、横持ちのコストがかかり、他業務と兼務してブロック製作にかかわる要員の確保の問題もある。アジテータ車が戻ってくる夕方の時間帯から余剰コンクリートを型枠に流し込む作業に取りかかるため、どうしても残業して製作することになり、増員はなかなか難しいという。

大江社長は、こうした状況について「個社では製作個数に限度があり、同じ仕様のベトンブロックの特性を生かし、近隣の同業者と連携して注文に対応していくのが得策だと考えている。当社の取り組みに共鳴する生コン工場とともに余剰コンクリートを有効利用するベトンブロックの普及を図り、生コン工場のゼロエミッションに近づきたい」と語る。